

# アフガニスタン・パキスタン 人道支援事業紹介

2010年7月～2012年12月



特定非営利活動法人 ジャパン・プラットフォーム

<2012年12月>

# 国をつくる 未来をひらく

## アフガニスタン・パキスタン NGOの取り組み



熱心に授業を受けるアフガニスタンの女兒©SCJ

### 重点3分野で9プロジェクト展開

NGO・経済界・政府が連携した国際人道支援ネットワークの（特活）ジャパン・プラットフォーム（JPF）は、長年の紛争や貧困によるアフガニスタン、パキスタンの「複合的人道危機」の軽減・改善を目的に、2010年から5年間の人道支援プログラムを展開しています。国連の支援フレームワークに沿って、①社会基盤の整備（学校建設、基礎インフラ整備など）、②教育・保健の強化（教員研修、保健衛生教育など）、③平和構築（地雷回避教育、国内避難民の生計支援など）の3つの重点分野を設定。対象はアフガニスタン（特に治安が悪い南部を除く）の一般住民、隣接するパキスタンのハイバル・パフトゥンハー州のアフガニスタン難民と一般住民です。

JPFに対する日本政府支援金を財源として、第1フェーズ（2010年7月～2011年12月）は15億円、第2フェーズ（2012年1月～12月）は11億円を投入。JPF加盟のNGO11団体が構成するワーキンググループのうち7団体が、国際機関や現地NGOなどと連携してプロジェクトを実施し、これまで学校建設・修復90校、地雷回避教育延べ16万6,000人などの実績を上げました。

2012年12月で終了する7団体9プロジェクト（第1・第2フェーズ）の活動を報告します。

**（特定非営利活動法人）ジャパン・プラットフォーム**

〒100-0004 東京都千代田区大手町1-6-1 大手町ビル266区

TEL：03-5223-8891 FAX：03-3240-6090

HP：<http://www.japanplatform.org/>

■アフガニスタン・パキスタン人道支援専用サイト

<http://afpk.japanplatform.org/>

■アフガニスタン・パキスタン人道支援 事業展開

**セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン (SCJ)**

<第1、2フェーズ>  
地域：パーミヤン州  
内容：学校建設、就学前教育、保健教育

**難民を助ける会 (AAR)**

<第1、2フェーズ>  
地域：5州  
内容：地雷回避教育

**ジェン (JEN)**

<第1、2フェーズ>  
地域：バルワン州  
内容：給水・衛生施設整備、衛生教育、学校施設整備

**ケア・インターナショナル・ジャパン (CARE)**

<第1、2フェーズ>  
地域：バルワン州、カピサ州  
内容：Community Based School の設立と運営支援

**日本国際民間協力会 (NICCO)**

地域：ヘラート州  
<第1フェーズ>  
内容：学校建設・備品供与、女性向け識字訓練、灌漑水路修復  
-----  
<第2フェーズ>  
内容：学校建設・備品供与、女性向け識字・IT訓練、農業支援

**ADRA Japan (ADRA)**

<第1フェーズ>  
地域：カブール市内  
内容：学校建設・備品供与、給水設備・図書室整備  
-----  
<第2フェーズ>  
地域：パーミヤン州  
内容：学校建設・備品供与、衛生教育、教員研修

**ジェン (JEN)**

<第1、2フェーズ>  
地域：ハイバル・パフトゥンハー州  
内容：ヤギと飼育道具供与、畜産指導員の育成

**難民を助ける会 (AAR)**

地域：ハイバル・パフトゥンハー州  
<第1フェーズ>  
内容：学校増築・修繕・備品供与、医療器材供与、給水設備整備  
-----  
<第2フェーズ>  
内容：学校増築・修繕・備品供与、衛生教育活動

**シャンティ国際ボランティア会 (SVA)**

<第1フェーズ>  
地域：ナンガハル州  
内容：学校建設・備品供与、図書室改善、子どもの学校外教育  
-----  
<第2フェーズ>  
地域：カブール州、ナンガハル州  
内容：同上

## Afghanistan



### (特活) 難民を助ける会 (AAR)

## 地雷回避教育で村々を巡回

(特活) 難民を助ける会 (AAR) は2005年以降、アフガニスタン復興の障害となっている地雷・不発弾の被害を防ぐために必要な正しい知識を普及・定着させる「地雷回避教育」に取り組んでいる。同国は世界最悪の地雷汚染国のひとつであり、毎月40人前後が被害に遭う。AARは同国政府が重視する「地域に根ざした地雷回避教育」の方針に沿って、少人数のチームで地域を巡回するスタイルで活動を展開し、現在の事業地は首都カブールとバルワン、パンジシル、バルフ、パーミヤンの5州。

活動の中心は、地雷回避に関する移動映画教室の開催である。AARは地雷・不発弾に関する啓発用の短編映画を独自に制作し、村々を回って上映するとともに、現地スタッフがイラストや写真などを使って詳しい説明を行っている。受講者の多くは地雷・不発弾被害の4割を占める子どもたちだが、子どもたちと接する時間が長い母親を含む成人女性も対象にしている。ただし、同国の男女隔離の文化慣習上、男性と一緒に講習会に参加できないため、新たに編成した女性チームが別途開催する。これまでに合計約9,700回の講習会を行い、延べ約43万人が受講した。

地雷回避教育用のノートを配布するスタッフ©AAR Japan



こうした活動で使用する教材の作成も重要な取り組みだ。短編映画のほか、地雷・不発弾のカラー写真を載せたポスター、パンフレットやノートなどを、作成している。併せてラジオ・テレビのドラマ番組を制作し、これまでに現地の主要放送局を通してラジオ320回、テレビ76回放送し、多数の視聴者に地雷・不発弾の危険性と回避方法を伝えた。

AARは第3フェーズも地雷回避教育を継続するとともに、地雷被害者を含む障害者支援事業を実施する予定である。



(特活) ADRA Japan(ADRA)

## 子供たちの学習環境を改善

(特活) ADRA Japan (ADRA) は、長年の紛争によって、健全な環境で教育を受ける機会を奪われていたアフガニスタンの子供たちの就学状況、教育環境の改善に取り組んでいる。

第1フェーズでは、首都カブール市第13地区にある学校2校で、それぞれ12教室の校舎1棟とトイレを建設するとともに、図書室と給水施設を整備し、生徒・教師用の机と椅子を配布した。また、図書室担当の教師6人の研修が行われ、読書を通じた子供たちの学習意欲の向上に寄与している。同地区は少数民族のハズラ系住民が多く居住しており、従来は青空教室あるいは借家やテントで授業を行っていたが、学習環境が大幅に改善されたことで、周辺の学校から多数の子供たちが移って来るなど、2校における直接裨益者はそれぞれ1万762人、4,108人に上った。

第2フェーズでは、より支援が届きにくい遠隔地のパーミヤン州中央郡とヤカウラン郡を対象に、男子高校1校、女子高校2校、小学校1校の計4校で校舎の建設、トイレと井戸の設置を進めるとともに、教員研修と衛生教育を実施した。教員研修では、4校30人の教師が20日間の研修を受け、各教科の教授法や知識

カブールの学校での聞き取り調査©ADRA Japan



を習得した。衛生教育は住民の興味・関心が高く、計画以上に参加者が集まり、直接裨益者420人、間接裨益者を含むと3,987人が水・衛生に関する正しい知識を学んだ。学習環境と衛生環境が改善されることで、来年3月の新学期には4校の児童・生徒数の合計は事業実施前と比べて1割以上増加すると見られている。

ADRAは第3フェーズも引き続きパーミヤン州での活動を継続し、中央郡、シバル郡、パンジャーブ郡、ワラス郡の4郡の学校施設整備、衛生教育、教員研修に取り組む予定。



(公財) ケア・インターナショナル  
ジャパン(CARE)

## 遠隔農村地域の学校支援

(公財) ケア・インターナショナル ジャパン (CARE) は、アフガニスタン政府の教育行政が行き届かない遠隔農村地域で、コミュニティによる学校・教室運営を通じて初等教育の機会を確保し、管理・運営に当たる地域の人々の能力強化と環境整備を支援している。特に伝統的・慣習的に教育へのアクセスが妨げられている女子の学習環境づくりに力を入れている。

第1フェーズでは、山岳地域パルワン州、カピサ州の中でも近隣に公立校がなく、識字率が低い地区を対象に、民家やモスクの部屋を使ったコミュニティ運営の学校・教室(CBS)を30カ所開設。それぞれ約30人、計908人(うち女子662人)の児童が学習した。教師30人と学校運営委員会メンバー90人は地域住民が選任し、立ち上げ準備、授業のモニタリング、授業を欠席した児童の家庭訪問などの学校運営を保護者と住民が主体的に担った。

第2フェーズも引き続き、両州の農村地域で50カ所の学校・教室運営を支援。教育の質の向上を目指して、教育省と連携して教師の選定・研修を行うとともに、女性のエンパワーメントをより重視して活動を展開した。その結果、児童1,492人(うち女子

カピサ州内の村の小学校の入学式©CARE



1,076人)が学習の機会を得たほか、教師50人(うち女性12人)、50の学校運営委員会が能力強化研修を受講した。同国では女性の権利が抑圧された影響で5~24歳の女子の識字率は2割以下にとどまり、とりわけ農村地域の女子教育の改善が急務となっている。

第3フェーズはパルワン州、カピサ州でプロジェクトを継続するとともに、新たにパキスタンのハイバル・パフトゥン・クワ州3郡で「PTC能力強化による初等教育向上プロジェクト」として公立小学校8校の能力向上をサポートする予定である。



## 学校の給水・衛生環境を改善

(特活) ジェン (JEN) はアフガニスタンの山岳地域パルワン州で、学校環境整備および衛生教育事業を実施し、より安全・快適な学習環境を確保することを目指している。

第1フェーズは、同州2郡の42校を対象に衛生教育を実施。州教育局職員14人と教師720人に衛生教育研修を行ったうえで、対象校の全児童・生徒に衛生キットを配布し、衛生教育の授業を行った。このうち12校で給水施設・トイレを整備したほか、うち特に改修が必要な8校で児童が安心して学校に通えるよう、施設の整備を行った。

第2フェーズは、パルワン州の全ての学校に清潔・安全な給水・衛生設備を整備し、衛生習慣を普及・定着させるとともに、学校施設の整備・改修を通して安心できる学習環境を確保することが目標。81校を対象に衛生教育を実施したほか、23校の給水施設・トイレ、14校の学校施設を整備している。アフガニスタンでは全国的に給水施設・トイレが整備された学校が少なく、児童の衛生に対する知識も十分でないため、下痢などを発症する児童も多かったが、石けんを使って手を洗う習慣を身に付けること

小学校での手洗い普及活動©JEN



で、その状況が改善されつつある。

第1・第2フェーズを合わせると、これらの活動による直接裨益者は児童・生徒7万9,060人、教員2,316人、州職員34人、地域代表者1,200人、イスラム教聖職者（ムッラー）348人、間接裨益者は63万2,480人に上る。

JENは第3フェーズにおいて、引き続きパルワン州の64校で衛生教育を実施するほか、給水施設・トイレ整備18校、学校施設整備12校を計画している。



## 教育・女性・農業の包括的支援

(公社) 日本国際民間協力会 (NICCO) は、アフガニスタンの持続可能な経済・社会開発の実現を目指し、西部ヘラート州で教育・女性・農業支援を組み合わせた包括的・多面的な地域復興支援を現地団体と連携して実施している。

第1フェーズは、同州の農村部で3校の学校建設、4校の学校修復をはじめ、井戸・トイレなどを整備し、7地区の児童1万3,140人が安全・快適な環境で授業を受けられるようになった。併せて、女性を対象としたタリ語の識字教室を開催し、9地区・約400人が小学校レベルの識字能力を身に付けた。また、農業支援として、荒廃した灌漑水路の修復を行い、1,750世帯（1万500人）の農業従事者が灌漑システムを活用できるようになった。

第2フェーズでは、教育環境の改善を目指し、6校の学校建設及び備品供与に加えて、教員24人に理数科教育研修を実施。女性を対象とした識字教室（11地区477人）のほか、基礎的なIT技能訓練（2地区225人）、救急処置やHIV/AIDS・DV予防などに関するセミナー（9地区728人）を行い、女性のエンパワーメントを図った。また、農業再生と収入向上を目指して、貧困農民を対象

ヘラート州の農民への苗木の配布©NICCO



に苗木・野菜の種や農機具キットの配布、技術講習会を実施し、5地区700家族（4,200人）をサポートした。

事業運営は、現地の治安状況を考慮して「遠隔管理方式」で実施。隣国イランに現地統括の国際スタッフ、ヘラート州に提携する現地団体RSDOの担当スタッフを配置し、イランからメールや電話を通じて緊密な調整・業務連絡を行っている。

第3フェーズはヘラート州の活動を継続するほか、新たに中部ゴール州で包括的支援のパイロット事業を開始する予定。



Save the Children  
JAPAN

(公社)セーブ・ザ・チルドレン・  
ジャパン(SCJ)

## 4～6歳の就学前教育を実施

(公社)セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン(SCJ)は、アフガニスタン中央部に位置するバーミヤン州で、紛争と貧困の影響下にある子供たちが置かれた状況の改善を目的に、①学校校舎建設・増築/教員研修、②子供保健教育、③就学前教育(4～6歳児対象)の3本柱の教育復興支援事業を展開している。

第1フェーズは、同州中央郡の小学校4校(児童2,246人)に計20教室と給水施設、トイレを建設。州教育局職員と教師152人に対して、「暴力・体罰に頼らない指導能力」研修を実施した。保健教育では40グループを結成し、年長の子供115人にファシリテーター研修をしたうえで、保健教育キットを配布し、892人に感染症予防など保健衛生の正しい知識を伝える活動を行った。学校教育への適応力や思考力を育み、就学率向上を目指す就学前教育は、39グループ(840人)を結成し、ファシリテーター研修(78人)、ペアレンティング・スキル研修(保護者1,166人)を実施した。

第2フェーズでは、中央郡10校区で教育活動を継続するとともに、新たに3郡4校(1,887人)に36教室を増設。暴力・体罰に頼らない指導能力研修(127人)を行った。保健教育では子供

小学校の授業を受ける子供たち©SCJ



888人と子供ボランティア124人、その家族に保健衛生の基礎的知識を普及。就学前教育は幼児1,547人、ファシリテーター150人、保護者1,368人に対して教育・研修を実施した。アフガニスタンでは従来、授業中に答えを間違えた子供を教師が強く詰問したり、体罰を加えるといった指導が横行していたため、「暴力・体罰に頼らない指導能力」研修を通じて、子供たちを励まして自信を育む指導法への転換を図っている。

第3フェーズは、バーミヤン州3郡の教育支援を継続する。



(公社)シャンティ  
国際ボランティア会(SVA)

## 図書室事業による教育支援

(公社)シャンティ国際ボランティア会(SVA)は、アフガニスタンの児童の学習環境改善を目的に、ナンガハル州、カブール州で、①校舎建設・備品供与活動、②図書室改善活動、③学校外教育活動の3本柱による初等教育改善事業を実施している。

第1フェーズでは、東部ナンガハル州の郡部3校(児童2,513人)に22教室を建設し、机・椅子などの備品を供与した。小学校29校に学校図書室を設置し、1校あたり約700冊の蔵書を整えるとともに、教員研修(37校)と図書館員研修(26校)を実施。支援を行ったナンガハル州内の5つの公共図書館の蔵書数は平均2,361冊、1カ月あたりの児童の図書貸出数は平均119冊、利用者数は平均420人に改善した。図書活動や文化活動、不就学児童のための特別教室などを行う学校外教育施設(子ども図書館)は年間292日開館し、利用者数は延べ6万1,766人に上った。

第2フェーズは、児童が野外での学習から解放されることを目指し、カブール州の郡部で2校の校舎を建設した。図書室改善活動では、小学校39校と5つの公共図書館で図書活動を普及。このうち37校を対象に、絵本や紙芝居の読み聞かせを行う移動図書館

学校の図書室で読書する児童©SVA



活動や、図書活動定着のためのモニタリングを実施した。また、アフガニスタンの民話や創作話を基に絵本5部(各2,400冊)、紙芝居1部(200部)を出版し、図書室・図書館に配布した。子ども図書館における学校外教育活動では、1日あたり194人の児童が活動に参加。貧困などのために通学できない不就学児童を対象にした特別教室(9カ月間)は50人に教育の機会を提供した。

第3フェーズでは、引き続きカブール州、ナンガハル州で3つのコンポーネントの初等教育支援を実施する。

## Pakistan



(特活) 難民を助ける会 (AAR)

## 難民・避難民の児童サポート

(特活) 難民を助ける会 (AAR) は、パキスタン北西部ハイバル・パフトゥンハー州に居住するアフガニスタン難民、反政府勢力掃討作戦の影響で発生したパキスタン国内避難民、および地域住民を対象に「教育環境改善事業」を実施し、障害児を含むすべての児童が健全な環境で学べる環境づくりに取り組んでいる。

第1フェーズでは、初等教育設備拡充として、同州ノウシェラ郡の公立小学校6校の教室やトイレを増設したほか、この6校を含む15校(児童2,130人)に机・椅子や本棚などの資材を供与し、学習環境を整えた。他方、ベシャワル郡の3校など一部事業は、現地協力団体が解散したため活動中止を余儀なくされた。保健衛生改善としては、ノウシェラ郡の3基幹病院(患者延べ人数計4万4,200人/月)に基礎医療器材を供与。難民キャンプと周辺コミュニティに、ハンドポンプ式井戸56基を設置するとともに、衛生講習を実施した(裨益560世帯・4,480人)。

第2フェーズは、初等教育設備拡充としてノウシェラ郡にある難民キャンプ内の小学校4校(児童700人)、周辺のパキスタン公立小学校13校(児童3,200人)の教室やトイレなどを建設。増

衛生教育活動に参加した学校関係者©AAR Japan



改築に際しては、身体障害を持つ児童を想定してバリアフリーに配慮したほか、総合的教育の促進のために図書室を整備し、スポーツ器具などを供与した。併せて衛生教育活動として、児童がより衛生的な教育環境で学べるように、これら17校の児童と教師、保護者代表(約4,000人)を対象に衛生知識に関する啓発活動を実施し、意識の向上を図った。

第3フェーズも引き続き、同郡で初等教育設備拡充、衛生教育活動を実施する。



(特活) ジェン(JEN)

## ヤギ飼育で避難民の生計向上

(特活) ジェン(JEN)は、パキスタンのハイバル・パフトゥンハー州デラ・イスマイル・カーン県で、反政府勢力掃討作戦の影響で発生したパキスタン国内避難民の生計復帰支援事業として、ヤギの配布・育成方法の指導による生計回復をサポートしている。

同県内には、連邦直轄部族地域での政府軍と武装勢力との激しい戦闘を逃れた国内避難民が2009年以降流入し、多くは安定した生計手段を失ったまま貧困生活を送っている。第1フェーズでは、同県バハルブル郡に居住する避難民500世帯のうち480世帯に、妊娠した雌ヤギ1頭と飼料道具セットを配布するとともに、畜産指導員20人の世帯に雄ヤギ1頭と飼料道具セットを配布した(計約3,500人)。事業期間中、約250世帯で子ヤギが生まれ、1頭生まれた世帯では1日平均約2.4リットル、2頭では約2リットルのミルクを搾乳していた。ミルクは各世帯で消費するだけでなく、近隣で販売し現金収入につなげることで、人々の自立に向けた生計復帰に貢献している。畜産指導員20人は、専門家によるヤギ管理研修(10日間)と2回の補習を通して、畜産の知識を習得した。その後、配布したヤギ用管理キットを持参して各世

国内避難民へのヤギの配布©JEN



帯を訪問し、ヤギの健康状態を確認したり、飼育に関するアドバイスを行っている。

第2フェーズは、同郡の避難民2,727世帯にヤギと飼育道具を配布するとともに、この中から選んだ畜産指導員110人に対してヤギ管理研修を実施した。最終的にはヤギの飼育に関するノウハウを地域で共有する仕組みを整え、ミルクや肉などの販売を通じて避難民世帯の生計回復を目指す。

第3フェーズは同県パロヴァ郡で同様の活動を予定している。

